

熊本でダム含め再検討を

ポスト3か年緊急対策が必要

視察被害
議員足立
7月豪雨

足立敏之参議院議員は、災害対策を「ライフワーク」にしている一環で、7月3日からの梅雨前線に伴う大雨で被災した熊本県を11、12日にわたり視察。15、16日には岐阜県を視察した。その結果

を早速、今年の「7月豪雨」調査レポートとして取りまとめた。熊本県人吉市のある人吉盆地は、球磨川本川と川辺川の合流点にあり、水が集まりやすい地形。下流は狭き道になっており、過

去にも浸水被害が発生した。しかし今回中心街の被災II写真①IIは著しく5以上の浸水痕跡を目にした足立議員は「ただ単に橋だけでなく、抜本的な治水対策の必要性を実感したと言っ。



現在、「川辺川ダム」の建設が中止に追い込ま

①人吉市中心街

れているもの、すでにすべの、地権者と用地交渉で補償基準を妥結、水没者の99%は移転を終え、仮排水路トンネルは完成、付替道路は9割完成済みのため、あとはダム本体を建設するだけの状況となっている。このため改めて、ダムを含めた治水対策を検討する必要性を強調している。

熊本県津奈木町では、大規模な土砂災害に見舞われた現場を視察。行方不明者の捜索を200人規模の警察、消防、自衛隊で行われる中、慎重な作業が必要な重機のオペ



②建設業者が慎重に重機作業

し、引き続きの対策実施を要請されたことに言及。足立議員自身も3か年や5か年の「新たな緊急対策が必要」と話しており、ポスト3か年緊急対策の実現に意欲を示した。

レーターとして建設業者が尽力II写真のIIしている姿に「最前線で苦勞されていた」を振り返り、緑の下の力持ちとしての活躍ぶりを評価した。岐阜では、下呂市での洗掘流出現場や高山市での土砂災害現場を視察。死亡者が出なかったのが不思議なくらい、甚大な被害だったと言っ。飛驒

川の洗掘で国道41号が根こそぎ流出した現場もあり、観光や物流面でも重要な道路であるため、全力を挙げての早期開通を願うとしている。レポートをまとめた足立議員は、視察時に面会した各地の首長が「防災・減災、国土強靱化のため」の3か年緊急対策の今年度での終了を懸念